

## 東村山市地域公共交通会議委員のご意見

### ●公共交通の現状把握と課題整理に関するご意見から

#### 現状から思うこと

- 高齢化により免許証を返納される方が多く、その方々の足を確保しなくてはいけない。
- 東村山市はバスも電車も充実しているものの、地域交通空白・不便地域があり、何かしなくてはいけない。
- 生活する人の立場に立つと自家用車に頼っているところがある。以前は家族の誰かが運転して乗せて行ってくれたことでうまく回っていたことが、少子高齢化や核家族化で、自家用車での移動が立ち行かなくなり、綻びが出てきている。
- 何を使うか、使っているか、或いは使いたいのか、また、従来の交通手段、公共交通を使わない理由を知ることは大切です。

#### 新たな移動手段の検討について

- 効率化して実態に合った輸送を考えていかななくてはいけない。
- 市の公共交通会議で目標をどこに置くべきなのか。
- タクシーを活用した公共交通手段も各地域でやっているが、全てが成功している訳ではない。
- デイサービス等々の送迎車に関して検討する余地があるのではないか。
- 交通不便地域、空白地域は確かにあるが、交通施策に充てられる財政にも限りがあり、発想を変えなくてはいけないのではないか。
- 単に買い物をするだけであつたら、ネットで出来るというものもある。むしろ、そこに市が送料を負担するなどの方が便利かもしれない。
- できるだけ既存のものを利用していく。今ある交通手段をどうやって維持していくか、そちらにもう少し力を入れて考えた方がいいのではないか。
- 地域住民の方達にも自分たちで作上げた移動手段であるという認識を持っていただくために、その方達の手で作っていくという雰囲気づくりや、地域の方達で話し合う場を設けることが今後は必要になると考える。
- 全体的に見ると、鉄道駅を交通結節点として、多様な移動手段がストレスなく需要と供給がマッチングできて選べるのが理想である。

## ニーズ把握について

- 何のためにバスや電車に乗るのか、何が必要で利用するのかニーズ調査をしっかり行う。
- 移動ニーズの確認を今後していかないと、移動手段のきちんとした確保や、必要などころに必要な移動手段が置けないのではないか。
- 自家用車や自転車を使っている人は本当に満足して使っているのかどうか。特に自転車は、「本当は怖いので、できることなら他の手段がいい」と思っていないか、いつまで乗り続けられると思っているのか等の視点からの調査は必要である。
- 初めて会う人と乗用車の狭い空間で乗り合わせるのが、心理的にどの位可能なのかについても押さえておきたい。

## ●課題の確認と解決策の検討に向けて、必要となる情報

- ①移動の目的・時間帯・頻度
- ②高齢者・妊婦・乳幼児連れの方たちの移動ニーズ
- ③移動できないことで、何に困っているのか